※令和４年度以降入学生用

学校番号	１１１

令和５年度　芸能文化科

教科	芸能文化	科目	古典芸能（箏曲）	単位数	２単位中の１単位	年次	１年次
使用教科書	なし						
副教材等	なし						

１　担当者からのメッセージ（学習方法等）

技芸に関する実習は、舞台に上がり観客に披露して、初めて学習の目的が達せられる。予算等の難しい面はあるが、可能な限りそのような機会を設けたい。

２　学習の到達目標

（１）箏曲の歴史など古典芸能の基本的な知識を学ぶとともに、その技法を習得してクラス全員で「飛躍」の合奏を行うことを目標とする。

（２）それぞれの意図に基づいた表現技法を理解し実践することを目標とする。

（３）学習活動に主体的に取り組むことで、良き鑑賞者の育成を目指す。

３　評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	・古典芸能の基本的な知識や内容を理解する。 ・箏曲に関する歴史を学び、表現方法や鑑賞方法等を理解する。 ・日本の古典芸能を学習するうえでの礼儀作法を学習する。	・奈良時代に伝来した箏が、現在でも広くその原形を保ちながらも普及し続けている意義について考えている。 ・楽奏や俗奏、それぞれの意図に基づいた表現等を生かした表現や、現代に生きる表現について構想し、工夫している。	・古典芸能のよさを感受し、芸能の意味や価値について考えながら、幅広い鑑賞の学習活動に主体的に取り組もうとしている。 ・古典芸能を学ぶうえでの所作を学び、また所作の裏にある意図や理由を正しく理解し、真似をして表現しようとしている。
上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。			

※令和４年度以降入学生用

４　学習の活動

<table>
<tr><th rowspan="2">学期</th><th rowspan="2">単元名</th><th rowspan="2">学習内容</th><th rowspan="2">単元(題材)の評価規準</th><th colspan="3">評価方法</th></tr>
<tr><th>知(a)</th><th>思(b)</th><th>主(c)</th></tr>
<tr><td rowspan="2">四～五月</td><td>箏曲入門</td><td>・箏曲の基礎知識
(楽器の名称・歴史・楽器の扱い・座り方・爪の当て方・姿勢・楽譜の読み方)</td><td>a: 箏曲の基礎的な礼儀作法、構造、楽譜の読み方を知り、実際に演奏することができる。
b：箏曲本来の良さを味わい、異なる表現方法について考えている。
c: 礼節をわきまえた態度で取り組んでいる。師匠の手本をよく観察して、その真似をしようと努めている。</td><td>実技テスト</td><td>筆記テスト</td><td>授業観察</td></tr>
<tr><td>基礎練習</td><td>・「さくらさくら」</td><td rowspan="5">a:正しい姿勢・正しいリズム・音程で演奏することができる。
b：箏曲本来の良さを味わい、異なる表現方法について考えている。
c: 礼節をわきまえた態度で取り組んでいる。師匠の手本をよく観察して、その真似をしようと努めている。</td><td>実技テスト</td><td>筆記テスト</td><td>授 業観察</td></tr>
<tr><td rowspan="2">六月～十月</td><td>課題曲練習</td><td>・「飛躍」
1月の大阪府高等学校芸術文化祭出場曲
・すくい爪・割り爪・掻き手等の手法</td><td>実技テスト</td><td>筆記テスト</td><td>授 業観察</td></tr>
<tr><td>課題曲練習</td><td>・引き続き課題曲を進める
・裏連・輪連・後押し・引き色等の手法</td><td>実技テスト</td><td>筆記テスト</td><td>授 業観察</td></tr>
<tr><td>十一月～十二月</td><td>課題曲練習</td><td>・課題曲を最後まで一通り終えたら、強弱、緩急、音色の変化等の音楽的な表現の練習</td><td>実技テスト</td><td>筆記テスト</td><td>授 業観察</td></tr>
<tr><td>一～三月</td><td>課題曲練習</td><td>・舞台での反省
・2年次で学ぶ三味線について</td><td>実技テスト</td><td>筆記テスト</td><td>授 業観察</td></tr>
</table>

※　表中の観点について　a:知識・技能　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度